

第1回日本呼吸療法医学会 定時社員総会 議事録

日 時：2014年7月18日（金）15：30～17：30

場 所：秋田キャッスルホテル4階「矢留」

【開 会】

1. 開会（川前理事長）

2. 理事長挨拶（川前理事長）

代議員101名中、出席74名、委任状提出17名にて本社員総会の成立と開会が伝えられた。

3. 会長挨拶（多治見会長）

多治見会長より挨拶があった。

【役員選挙】

選挙管理委員に槇田先生と磨田先生が選出された。

理事候補者7名（竹田晋浩先生、落合亮一先生、尾崎孝平先生、蝶名林直彦先生、大塚将秀先生、藤野裕士先生、小谷 透先生、川前金幸先生）の演説会が約1分ずつ行われ、理事の投票を開始した。監事2名（妙中信之先生、氏家良人先生）は立候補の届出者数2名で定数を超過していないため満場一致で承認された。理事長選挙は、理事選出時の有効得票数上位3名となる。

【報告事項】

1. 新代議員の紹介（川前理事長）

6名の新代議員が紹介された。

- ・江木盛時先生（神戸大学病院集中治療部）
- ・櫻本秀明先生（筑波大学附属病院看護部）
- ・佐藤暢一先生（東邦大学医療センター大森病院麻酔科）
- ・清水 雄先生（筑波大学大学院人間総合科学研究科）
- ・橘 一也先生（大阪府立母子保健総合医療センター麻酔集中治療科）
- ・四本竜一先生（東邦大学医療センター大森病院看護部）

2. 理事会報告および代議員会報告（川前理事長）

昨年度の理事会の議事録と代議員会の議事録が配布された。

3. 事務局報告（妙中事務局担当理事）

職 種	2014年7月1日現在 会員数 %		2014年4月1日現在 会員数 %		2013年10月1日現在 会員数 %		2013年7月5日現在 会員数 %	
医 師	988	45.97	976	46.40	978	43.80	951	43.60
看護師	531	24.71	512	24.30	585	26.20	575	26.40
臨床工学技士	450	20.94	441	21.00	474	21.20	462	21.20
理学療法士	128	5.96	123	5.80	137	6.10	134	6.10
その他（臨床検査技師、薬剤師、心理士、歯科衛生士、作業療法士、言語聴覚士、研究エンジニア、教員、管理栄養士、学内講師等）	28	1.30	29	1.40	37	1.70	36	1.70
企業関係	24	1.12	24	1.10	24	1.10	23	1.10
会 員 総 数	2,149	100.00	2,105	100.00	2,235	100.00	2,181	100.00

- 【参考】1. 会員総数のうち、女性会員 665 名（医師 139 名、技士 78 名、看護師 401 名、理学療法士 37 名、その他 9 名、企業関係 1 名）。
2. 年度末退会者 4 名を含む（2015 年 3 月末退会予定者）。
3. 3 年分会費滞納者 119 名を含む（2015 年 3 月末退会予定者。7 月 1 日現在）。

・賛助会員 11 社

4. 委員会報告

①将来計画委員会（川前委員長）

「第 1 回医師向け 人工呼吸管理 基礎教育プログラム」を開催した。好評だったため今後も昨年と同じプログラムで平成 26 年 11 月 8 日（土）9：30～17：00 に開催予定にしており、5000 円値上げする予定である。今後、セミナー委員会の方で運営していく予定である。多治見会長を委員長として学術委員会を設立し、学術集会の講演、シンポジウムのテーマの決定、座長、演者の企画立案を行った。

②人工呼吸編集委員会（星委員長）

- ・昨年 11 月に学会誌「人工呼吸」の 30 巻 2 号、今年 5 月に 31 巻 1 号を刊行した。委員会では「略記号一覧」の体裁とフルスベルについて再検討が行われ、30 巻 2 号より、新表記に統一している。
- ・投稿数を増やすことを目的に、優秀論文賞を設けることを委員会より理事会に提案し、承認を得たため、2013 年度発刊の 30 巻 1・2 号に掲載された論文 13 編より優秀論文賞・奨励論文賞の選考を行った。授与式は 7 月 19 日（土）全員懇親会にて行い、理事長より賞状と副賞を授与する。
- ・2009 年発行の用語集第 1 版について、委員全員で各用語の英語と日本語の対応について、明らかに現状にそぐわないものをピックアップした。関連学会の用語集の表記と比較し、委員会で検討する。
- ・人工呼吸管理安全対策委員会作成の「急性呼吸不全に対する非侵襲的陽圧換気システム安全使用のための指針」は、社員総会にて承認後、31 巻 2 号に掲載予定である。

③代議員審査委員会（中沢委員長）

対象者 101 名のうち、任期満了・辞退者合計 10 名を除き審査を行い、残り 91 名の再任が適当であると承認された。任期満了は井上哲夫氏、安本和正氏、松川 周氏、丸川征四郎氏、原口義座氏。継続を希望しない代議員は小林敦子氏、佐藤俊秀氏、堂籠 博氏、長野 修氏、野口隆之氏。
また、新代議員は 6 名から応募があり委員会全員一致で理事会に推挙し、5 月 1 日の理事会で承認された。

④在宅人工呼吸療法検討委員会（磨田担当理事）

TPPV マニュアル（仮題）の出版に向けての活動を準備中。原稿がそろったので、送付の準備中である。在宅人工呼吸患者の全国調査に関しては、日本医用機器工業会の協力を得て実施。現在集計データ待ちの状態

であるが、労力などの点でかなり大雑把な調査にならざるを得ないのが現状である。

⑤日本呼吸療法医学会セミナー委員会（尾崎担当理事）

2013年5月11日に第36回セミナー（神戸市）受講者 269名、7月21日に第15回セミナー実技コース（新宿区）、受講者 36名、11月16日に第37回セミナー（横浜市）、受講者 327名の開催を行った。決算についても説明があり、会計士に確認済みである旨報告された。

⑥チーム医療推進委員会（水谷委員長）

昨年、第35回学術総会時、委員会を開催し「呼吸療法サポートチーム（RST）活動支援のためのプロジェクトチーム」の活動状況、意見交換等を行った。引続き、長谷川委員長が中心となり、呼吸ケア・リハビリテーション学会と連携し活動中である。2014年3月15日には亀田病院京橋クリニック（東京）において両学会プロジェクトチームメンバー計9名が出席し、第3回打ち合わせを行い、RST施設登録システムに関して、意義、収集データ項目・方法、呼吸ケア・リハビリテーション学会との分担内容、経費、今後の予定などを検討し、その後原案を作成した。「非医師の会員投稿支援システム」については現在、委員長が対応しており、2014年3月現在、対応中2件、終了1件である。件数が増加した場合や相談内容により代議員の先生方をお願いすることもあると思われるため、協力いただきたい。

⑦多施設共同研究委員会（多治見会長）

活発に活動できておらずARDSのガイドラインも報告できない状況である。今年度をもち多施設共同研究委員会を発展的解消とし、今後、ARDSガイドライン作成委員会を設立予定である。ARDSガイドラインは日本集中治療医学会と合同で作成し、連名で出す予定であることが拍手にて認められた。

⑧人工呼吸管理安全対策委員会（大塚委員長）

- ・「人工呼吸器安全使用のための指針第2版」を周知するため、小冊子を10,000部作成し、賛助会員・日本医療機器工業会・全国医療安全共同会議を通して全国の施設に配布した（2013年10月）。作成費用は240,450円、広告収入は6社で201,600円であった。趣旨に賛同した企業のホームページから、同指針へのリンクを貼った。

- ・「急性期NPPV装置安全使用のための指針（仮称）」の作成はパブリックコメントの募集を終え、委員会最終案（資料10-2）を作成し、平成26年5月1日の理事会で承認された。

社員総会で承認が得られ次第、ホームページおよび人工呼吸誌に掲載予定である。

- ・学会ホームページ上で「突然の人工呼吸器作動停止事象」の情報収集を行っており2013年6月～同年12月末までに48件の情報が寄せられた。作動が停止していなかった11件を除く37件を集計している。死亡および後遺症を残したものは1例もない。学会誌で公開することを検討していく。

⑨日本呼吸療法医学会専門医委員会（藤野委員長）

- ・1年に2度委員会を開催し、専門医・専門医施設の認定を行っている。
- ・平成25年度日本呼吸療法医学会専門医研修施設に今回申請のあった6施設（近畿大学医学部奈良病院、京都医療センター、静岡県立こども病院、三重大学医学部付属病院、高知赤十字病院、東京医科大学病院）すべての施設が認定された。
- ・2014年度専門医試験より口頭試問から筆記試験に変更することが決定し、筆記試験問題を作成中である。日程は2014年11月15日（土）、試験会場は東京医科歯科大学で行う予定である。
- ・来期の副委員長は、中沢弘一先生（東京医科歯科大学大学院心肺統御・麻酔学分野）に決定した。

- ・専門医・専門医研修施設の更新は今後、web 上で手続きできるよう画面を構築する。

◎認定書は額縁に入れて送付してほしいとの提案があり、委員会で検討することとなった。

⑩危機管理委員会（小谷委員長）資料 12

世界的な呼吸器に関連する感染症（MERS-CoV、H7N9 インフルエンザ等）を学会ホームページに掲載し、注意喚起の発信を行っている。今後もさまざまな呼吸器感染症による危機は続くと思われ。これら感染症に関するデータ収集が遅滞なくできるよう、オンラインデータベースを作成したい。

⑪ ECMO プロジェクト委員会（竹田委員長）

- ・厚労省研究班（重症のインフルエンザによる肺炎・脳症の病態解析・診断・治療に関する研究、新型インフルエンザ等を起因とする ARDS に対する ECMO 療法の治療成績向上の為にシステム構築）と頻回に会議をもち活動を行った。
- ・ECMO 治療に関するアンケート調査を呼吸療法医学会、集中治療医学会の評議員に対し行った。
- ・ECMO シミュレーションラボを東北大学で開催し、多くの施設から参加していただいた。今後は年 3 回程度開催予定である。

⑫利益相反委員会（行岡委員長）

6 月 19 日にメールにて COI のアンケート調査を行った。全体で 7 割くらいに送信でき、2 割から回答があった。アンケート内容について解説された。学会が終わったら、再アンケートをお願いする予定である。日本医学会が 2014（平成 26）年 2 月に改定した医学研究の COI マネージメントに関するガイドラインによると、役員選挙の際には COI を提出してから選挙を行うべきだとする内容が記載されている。また、倫理委員会と編集委員会と COI 委員会は連結すべきと記載されているが、本学会には倫理委員会がないため、検討しなければならない。

⑬学術委員会（多治見委員長）

36 回の学術総会を開催するにあたり、プログラムを考案してきた。来年は橋本先生が委員長を務めることとなる。

⑭高頻度振動換気法使用指針作成のためのワーキンググループ（長谷川委員長）

日本で使える標準的な機械を用いた場合の使い方を出したいという思いで、プロトコルを提案予定である。明日、学会で委員会報告を行う。学会終了後にパブリックコメントを募集し、外部委員会からも意見を集め、プロトコルを修正し、完成したものを発表したい。

5. 第 37 回日本呼吸療法医学会学術総会準備状況（橋本副会長）

2015 年 7 月 17 日（金）・18 日（土）に国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池）にてメインテーマを「やさらかな呼吸を求めて」と題して開催予定である。ECMO を中心とした呼吸不全等全身管理をする国際組織 APELSO の学術集会と併催することとなる。

6. 第 38 回日本呼吸療法医学会学術総会準備状況（西田副会長）

2016 年 7 月 16 日（土）・17 日（日）名古屋国際会議場で開催予定である。充実した学術集会にしたい。

7. 委員交代について

資料に基づいて報告された。

8. その他

- ・社会保険委員会と財務委員会を設立することが報告された。

【審議事項】

第1号議案 第1期（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）決算書類承認の件
（妙中事務局担当理事、氏家・安本監事）

妙中担当理事から2013年度決算について説明があり、安本監事から監査報告があった。報告書は2012年度まで残高ベースと違い、2013年度からは収支ベース（単年度の収支の把握を目的とするもの）に変更されている。単年度では、当期収入額23,755,500円、当期支出23,477,901円で、277,599円の黒字となる（2013年度に開催されたセミナー参加費約300万円が2012年度決算に計上されていたため次年度からはもう少し当期収入が増えると思われる）。監事からは以下の指摘があった。

- ・年会費は会員総数2,142名全員からの収入を見込んで予算計上していたが、1,891名からの入金にとどまった。次年度予算を計上する際にこの数字を参考に、会員数×90%で算出すること。
- ・委員会費の予算額と決算額の差が大きいため2014年度以降は、前年度決算額に合わせるなどして適正な予算を立てること。
- ・学会の活動報告として、理事会・各委員会等の活動と各役員・委員の出欠記録などを提出すること。

河村公認会計士からは次の指摘があった。

- ・現在、学術総会の会計報告は別に行っているが、今後、連結決算にする必要があるかもしれない。
- ・学会の事業報告として活動報告書を作成した方が良い。

第2号議案 第2期（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）収支予算の件（妙中事務局担当理事）

妙中理事より予算案が提案され承認された。今年度より予算にも繰越金差額として、未払い法人税7万円とセミナーの参加費や正会員・購読会員年会費で300万円の前受収益を計上している。

2014年度予算の当期収入額は28,089,980円、前年度繰越金を足して総収入が58,023,370円、当期支出額は25,801,100円、次年度繰越金は34,892,270円となっている。

第3号議案 定款変更の件（妙中担当理事）

また、役員選挙を先に行う都合上、関連する「第3号議案 定款変更の件」を先に行い承認を得た。主な定款・施行細則の変更点は以下の通りである。

- ・「学術総会」を「学術集会」に変更
- ・定款18条 理事の定員を7名以内→11名以内に変更。
- ・定款施行細則第5条（2）「代議員会」を「定時社員総会」とし、他の表記と統一。
- ・細則第9条に、理事を選挙理事と職責指定理事に分けることを追記。
- ・定款第22条にあった「役員は6年を超えて再任できない」の項を削除し、細則第10条の1に追加して記載し、選挙理事の再任は3期までとした（6年→3期に修正）。
- ・細則第10条の2に、「副会長選任後2年で退任し会長就任と同時に再任」との文言を追加。職責指定理事は合計4年間となるため、選挙理事の任期2年と整合させるためである。
- ・細則第27条を「本施行細則は、理事会の議決により変更することができる。」と変更。
- ・定款と定款施行細則にあった「附則」は削除してよいことを確認の上、削除。

第4号議案 理事および監事の改選に関する件（川前理事長）

現理事会は法人化から1年しか経過していない状態で選挙を行うこととなるため、法律上の手続きとして、理事・監事が辞任する旨説明があり、承認された。

第5号議案 次々期（第39回）会長候補者の推薦の件（川前理事長）

第39回学術集会会長に布宮 伸先生（自治医科大学医学部麻醉科学・集中治療医学講座 集中治療医学部門）が会長として推薦され、承認された。

第6号議案 名誉会員推戴の件（川前理事長）

以下5名が推薦された。

- 井上哲夫先生（日本医科大学千葉北総病院麻醉科）
- 丸川征四郎先生（医療法人医誠会医誠会病院院長）
- 安本和正先生（社会医療法人愛宣会ひたち医療センター院長）
- 松川 周先生（地方独立行政法人宮城県立こども病院麻醉科・副病院長）
- 野口隆之先生（大分大学医学部麻醉科学講座）

第7号議案 各種委員会からの審議事項（川前理事長）

特になし。

【閉 会】（川前理事長）